

1 意見

- ・学校へのPR
- ・「分かりやすさ」アンケート項目修正
- ・街なか店舗サポート隊
- ・招待券学校配付
- ・営利スキーム

2 要望

- ・基本方針等基礎資料提供
- ・組織体制提示
- ・組織等議論の時間

3 委員発言要旨

委員：

「椅子の場所は決めることができる」展は、鑑賞の後に興味を持って街なかに行きやすいということもあるが、日ごろから街なかに親しんでいる子ども達にも伝わるものとしても良い展示だった。周知について、子ども達も街なかが面白くなってきていると感じているので、ぜひ学校にも行ってもらいたい。

委員：

子ども達に届くということは、家族に届くということでぜひ周知してもらいたい。

アンケート項目、満足度の「分かりやすさ」は疑問に感じる。「分かる、分からない」を超えた展覧会の魅力、親しみやすさのような言葉でもいいと思う。美術館として問い直しが必要だと感じた。

委員：

「椅子の場所は決めることができる」展について、街なかの店舗から椅子を借りているということを知らなかった。例えば、街なかの店舗にサポート隊のようなものを募り、メール等による連絡手段が確立できれば、連携も深まり街なかにより盛り上がるのではないかと思う。

委員：

最近、積極的に招待券を配らないという風習がある。金券という考え方によるものだと思うが、宣材物として数万枚を配付している例もある。収益を上げるよりも来館者を増やすという展覧会があってもいいと思う。そういった意味で、無料の日を設けたことは良いと感じる。配布先のバランスを考えるなど配付の方法は難しいと思うが、子どもや学校関係には配ったほうが良いと思う。

委員：

欧米の美術館は給料が安くて学芸員が辞めているということも起きている。

多額の予算を扱うこともそうだが、体制をしっかり整えることが重要であるとする。
ノンプロフィット（非営利）のパブリックスキームが主だと思うが、プロフィット（営利）のスキームを入れていかないと持続性が担保できないので、新しいビジネスモデルを検討していくべきと感じる。

委員：

「アーツ前橋という組織が全体として何を目指していくか」という基本や指標がどのようなものか、それに基づく柱が何なのかが分からない中での議論だった。また「組織体制がどのようになっている、今後どこに力を入れ、どのように進めていくのか」という役割分担が見えない。

今後、評議会がどのような議論を行うのかなど、全体の見取り図や基本情報が見えない中では意見が言いづらいと感じている。

委員：

まさにその通りだと感じる。ウェブサイトに詳細な情報は掲載されていると思うが、基礎資料を共有していただきたい。

委員：

「アーツ前橋あり方検討委員会」の提言を拝見したが、学芸員と事務職での調整が必要と書かれていた。今回、そのことについて改善されたか見えなかった。

事務局：

手探りの状況でもあるので、時間をかけて検討していきたい。

次回の委員会では体制について示していきたいと思っている。

委員：

評議会運営がこれまで通りでいいのか問題提起をしたい。

事業の進捗等に時間がかかり過ぎてしまい、組織等の議論がなくなってしまう。前回からの反省を踏まえ事務局とも相談していきたい。

「ニューホライズン」展は純粋に凄いなという印象。センスの良い市外の大学生は前橋に遊びに行く傾向が強い。高崎等に広報していくというのも効果的だと思う。